

能楽研究 24巻 : 奥付

雑誌名	能楽研究 : 能楽研究所紀要
巻	24
ページ	368-368
発行年	2000-03-15
URL	http://hdl.handle.net/10114/00020543

〔編集後記〕

二千年三月に『能楽研究』第二十四号をお届けする。今、大学は、市ヶ谷キャンパスに建築中のボアソナード・タワー（地上27階地下4階）の本年三月の竣工を前に最終点検に入っている。能楽研究所もその23階に移転するので、目下移転作業準備の真っ最中で、そのため、昨年十二月下旬から閲覧業務を休止し、皆様にはご不便をおかけしているが、五月十六日の再オープンまで、今しばらくのご猶予をお願いしたい。

右の事情から、移転準備中の紀要発行となったので、今号は、「研究展望（平成9年）」（山中玲子所員担当）、「能界展望（平成10年）」（西野担当）、研究所彙報と、後ろページから横組みにして文部省科学研究費補助金を受けて進めてきた共同研究「近世以前の能役者の総合的研究」（研究代表者・表章前所長）の成果「江戸初期能番組七種（その三）―演者名総覧と曲名索引・演者名索引―」を一挙に掲載した。ページ削減のため全体を圧縮して三―四ページに収めるなど、原稿作成から版下作りまで妙技を発揮された表前所長に対し深謝申しあげる。今後は、近世能楽史研究にぜひ活用していただきたい。ところで、ボアソナード・タワーの最上階スカイホールには組立式の能舞台ができる。ステージの上に舞台を置くのではなく、床に直接組み立てる形で、短いながら橋掛りもある。晴れた日には遙か房総半島まで見渡せるスカイホールの明るい空間を生かし、江戸式楽以前の開放的な能舞台をめざしている。取り外し可能な鏡板は室町障屏画の中から伝土佐光起

筆『松図屏風』（東京国立博物館所蔵）を参考資料としている。観客席は二百名。大学主催の竣工記念能が四月二十五日に予定されており、柿落としての演目は「翁」（友枝昭世・山本東次郎氏ほか）と「羽衣」（友枝昭世・宝生閑氏ほか）。

近年、能楽研究所はイギリス・スロバキア・アメリカ・イスラエル・シンガポール・ルーマニアなど、外国からの研究者・留学生の来訪が相次いでいる。外国の機関からの問い合わせもある。このたびの能楽研究所の新棟移転は、新世紀を目前にしての新たな出発でもある。世界の中の能楽研究の拠点となるよう、今後とも、皆様方の、これまでと変わらぬご支援・ご鞭撻を心からお願い申し上げる。（西野春雄）

二〇〇〇年三月十五日 発行

能 楽 研 究 第二十四号

102-8160 東京都千代田区富士見二一七―一

〇三三三六四九八一五、三三三三六四七二七
〔FAX〕〇三三三六四九六〇七

編集兼 野上 法政大学能楽研究所
発行者 記念

所長 西野 春雄

印刷所 三和印刷株式会社
長野市川中島町一八三二一